

コロナ禍のもとでの学会運営について

2020年6月28日
日本英語教育史学会会長
江利川 春雄

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、日本英語教育史学会の会員の皆さまにおかれましては、様々な困難の中で日々をお過ごしのことと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍により、たいへん残念ながら、5月の全国大会および7月の研究例会を中止せざるを得ませんでした。しかし、学会活動を停滞させるわけには参りません。この間、学会の理事会を5月中旬（メール審議）および6月28日（Zoom会議）の2回開催し、役員体制、会計、学会書籍賞、例会方針、紀要刊行予定などについての意志決定を行いました。詳細は、会報に掲載予定の理事会報告等をご覧ください。

役員体制に関してましては、3期6年に及んだ江利川の会長の任を本年5月の総会で解いていただく予定でした。しかし、会則第7条に「会長の任期は2年とし、立候補者の中から総会で選出する」とあり、総会が開催できない状況では会長改選ができません。また、何よりも現下の緊急事態の下で学会運営を円滑に行っていくためには、ご病気等のやむを得ない事情により退任される人を除いて、現役員に引き続き奮闘していただくことが最善であろうと判断いたします。そのため、役員各位には来年5月に予定されている全国大会での総会まで引き続き任を全うしていただきたいとお願いし、理事会で了承を得ました。なにとぞご諒解をいただきますようお願い申し上げます。

今後の例会に関しましては、参加者の健康を第一に考え、本年9月から来年3月までのすべての例会をオンライン（Zoom）で開催することと決しました。そのため、発表時間については70分か25分（共に質疑応答を含む）のいずれかを選択できるようにしました。積極的なご発表をお願いいたします。

学会紀要に関しましては、第35号を滞りなく刊行し、配付いたしました。次号につきましても従来通りのスケジュールで刊行いたしますので、奮ってご投稿をお願いいたします。

最後に、おめでたいお知らせです。日本英語教育史学会著作賞に西原雅博氏の『明治英語教授理論史研究：中学校英語教授の制度化』（溪水社、2019）が選定され、5月16日付けで賞状と副賞が贈呈されました。誠におめでとうございます。

コロナ禍という経験したことのない事態のもとで、学会運営も手探りの状況ですが、役員一同力を合わせて頑張りますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

末尾ながら、会員の皆さまのご健康をお祈り申し上げます。